

令和3年度学校自己評価システムシート (県立北本高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、生きる力を地域社会とともに育む学校
--------	----------------------------------

重点目標	1 基礎・基本を重視し、教科指導力の向上を図る。 2 個に応じた進路指導を充実させ、多様な進路希望の実現を図る。 3 自主自律の精神と規律を重んじる態度を育成し、豊かな心を育む教育活動を推進する。 4 地域連携事業を推進するとともに、新規事業を広報する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	7名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(1月27日現在)	
年度目標					年度評価(1月27日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	本校生徒は家庭での学習時間が極端に少なく、各教科における基礎・基本を徹底するためにも、家庭学習の時間を確保する必要がある。また、観点別評価についての共通認識を各教員が深め、次期学習指導要領を見据えた教科力の向上が急務である。	教員の教科力向上	①小テストの実施や課題提出、宿題等により、家庭での学習時間を確保する。 ②ICT機器の整備と適切な運用を行い、授業における効果的な活用を推進する。 ③観点別評価に対する校内理解を進め、実施に向けた検討を行う。	①生徒アンケートによる家庭学習の時間は増加しているか。 ②ICT機器の整備と効果的な活用はなされたか。授業を理解できている生徒は増加したか。 ③教科代表者会議等を通じて、実施に向けた共通理解は深められたか。	①生徒アンケートによる平日の家庭学習の平均は、1時間以上が27.2%(昨年22.8%)で、微増であった。 ②生徒アンケートで「授業がわかる」と回答した生徒は83.4%(昨年84.5%)であり、ほぼ横ばいであった。 ③観点別評価については、外部講師による研修会、資料提供等で共有した。	B
2	生徒の多様な進路選択に向けて、十分な情報提供と丁寧な個別指導が必要不可欠である。段階的な指導を充実させるためにも、保護者との連携は欠かせない。コロナ禍により、従前とは異なる対応が様々な場面で求められるが、最新情報を素早く共有し、対応する柔軟性が必要である。	多様な進路希望に対応した指導の充実	①内容を刷新した進路通信を発行し、保護者や生徒、教員に対して適切な情報提供を行う。進路指導部会において、各学年との情報共有を深める。 ②進路諸行事の見直しを行い、段階的かつ計画的な指導を推進する。 ③長期休業中の補習を実施する。3年生は就職、進学に係る個別指導、面接指導を充実させる。	①最新かつ適切な進路情報が、生徒や保護者、教員に対して提供されたか。 ②進路行事の見直しはなされたか。段階的、計画的な指導は実施されたか。 ③補習や面接指導等は生徒の実情に応じて実施されたか。	①進路通信を新たに発行し、進路に関わる最新情報を生徒に向けてわかりやすく継続的かつ段階的に提供した。 ②新企画として12月に全1、2年生を対象とした校内インターンシップ等を実施した。生徒にとっては早期からの段階的進路意識醸成に繋がり、外部講師としての企業側からも好評であった。 ③学力向上を目指した長期休業中の補習を全校的に計画し、実施した。	A
3	生徒指導上の課題は多く、生徒の規範意識を醸成していくことが必要である。遅刻指導、整容指導、適切な言葉遣いの指導等は、日常のあらゆる場面において学校全体で推進していかねばならない。その上で、生徒の主体性を活かした学校行事を充実させる必要がある。また、個に応じた対応が多く求められる中で、丁寧な教育相談の実施が不可欠である。	規範意識と主体性の育成 個に応じた支援の推進と情報共有	①遅刻指導、整容指導を段階的、継続的かつ組織的に行う。また、警察や保護者の協力を得て、交通安全指導や挨拶指導等を充実させる。 ②活動の目標を明確にし、生徒会行事を中心に、生徒に計画立案、行事運営を行わせる。	①遅刻指導、整容指導、交通安全指導、挨拶指導等を実施したか。指導件数は減少したか。 ②生徒会行事に対して、生徒は積極的に関わり、運営や総括を行うことができたか。	①遅刻の段階指導は第2段階が7名(昨年12名)、第3段階が2名(昨年1名)であった。整容指導、問題行動指導ともに対象者は減少している。 ②生徒会が中心となり、鴻巣陸上競技場での体育祭、校内の文化祭開催等、諸行事を工夫しながら順次実施した。	A A
4	コロナ禍にあって、KISEP(北本市小・中・高相互交流事業)として実施できたのは昨年度は中丸小学校との交流事業のみであった。KISEPについては、北本市教育委員会と連携を図り、可能な地域交流事業を積極的に計画したい。あわせて、令和4年度からの制服改定や特別支援学校分校開設を北本高校の新しい特色として地域に発信する必要がある。	地域交流の推進 新規事業の広報	①北本市教育委員会を交え、中丸小学校並びに北本市内各中学校との打ち合わせを早期に行い、実施に向けて情報共有をし、計画を立案する。 ②北本市役所、北本市福祉事業団、北本市自治会、鴻巣警察署等と連携を図り、実施可能な地域連携事業を計画する。	①北本市教育委員会を交え、小・中学校との協議会を実施し、KISEPの計画立案、活動の推進はなされたか。 ②地域諸機関との連携、情報共有、事業に向けた計画の立案等は行われたか。	①11月10日に中丸小学校にて、あいさつ運動と小高学び合いを実施した。また、12月1日に北本西中学校にて、数学と書道の出前授業を実施した。 ②社会福祉協議会、9都県市防災訓練連絡会議、商工会等、本校との連携に関わる実務会議を実施した。	B A

学校関係者評価	実施日 令和4年2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>北本高校の学習指導のポイントとして「家庭学習の充実」を挙げているのは大変素晴らしい。小テスト実施の方法や内容を工夫するとともに、適切な課題を定期的に課すなどの地道な対策が最善だろう。「授業がわかる」の回答が8割を超えていることは、十分に取り組みの成果が出ていると考えてよいのではないかと。今後とも引き続き、丁寧な指導をお願いしたい。</p> <p>9割を超える肯定的なアンケートの回答は非常に素晴らしい。生徒一人一人のニーズに応えた進路指導がなされている証左である。進路指導については、入学当初から意識付けを丁寧に行うことが肝要である。その意味において、新たな進路通信の発行や校内インターンシップの実施は評価できるものである。昨年、今年度とコロナ禍における経済活動の偏りのため、何かと制限される職種も存在すると思われる。最新情報を踏まえ、生徒のために尽力してほしい。</p> <p>北本高校の印象としては、学校全体が「動」の部分では活気があり、「静」の部分ではとても落ちついた生活ぶりであった。生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に関しては引き続き根気よく取り組んでもらいたい。教員に対する不適切な言葉遣いや態度を取る生徒に対しては一貫性のある指導が必要であり、その意味で問題行動に係る生徒が30名を超えている点は、少々懸念される部分である。教職員が一丸となった指導体制の構築を引き続きお願いしたい。学校の「綻び」はやがて生徒募集にも影響を及ぼす。その共通認識はしっかり持たせたい。引き続き今後も北本高校の活躍を応援したい。</p> <p>KISEPを中心とした地域交流は、北本高校だけのオリジナルであり、今後もより積極的な情報発信と活動を期待する。自治会連合会では高齢化が進んでいるが、北本高校の生徒との交流を促進することで、お互いの活性化を図ればと考えている。中学校の現場においては、今年度はコロナに振り回された1年であった。特に地域連携は例年に比べほぼ何もできなかった現状を考えると、北本高校の状況も仕方がないと言えよう。広報については、中学校へ最新情報を多数提供してもらい、中学3年生の進路選択に役立った。心から感謝したい。なお、分校の開校については、今後の北本高校の動向を地域は期待している。北本市内の小学校、中学校とも連携を深め、北本高校の魅力としてほしい。</p>

--	--	--	--	--	--	--	--	--